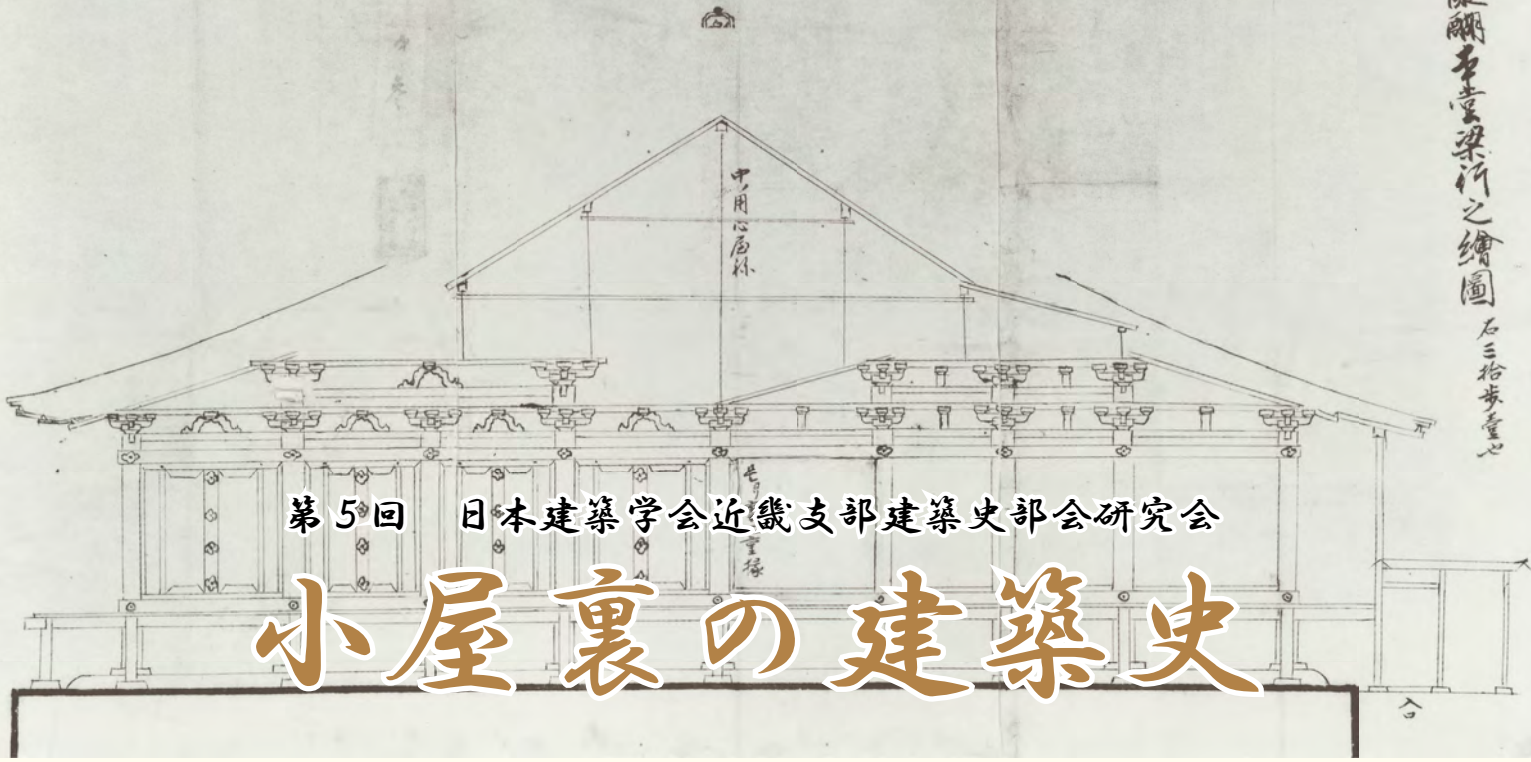


上醍醐寺堂梁桁之繪圖 石三拾歩堂也



第5回 日本建築学会近畿支部建築史部会研究会

小屋裏の建築史

発表 玉井浩登 (京都工芸繊維大学 大学院生)

「中世寺社建築に見られる内屋根について」

阿部文和 (大阪歴史博物館)

「近代に作成された棟札の書式とその性格」

コメント 岸 泰子 (京都府立大学)

司会 鈴木智大 (奈良文化財研究所)

日本建築学会近畿支部建築史部会では、歴史的建造物が集中し、重層する近畿の特徴を活かしながら、歴史的建造物とその背景にある社会や技術の解明を目的に研究活動を展開し、一昨年度からは公開研究会を開催しております。
今回は、若手研究者を発表者にむかえ、日本の木造建築を特徴づける小屋裏をめぐる課題について、議論を深めたいと思います。

主催 日本建築学会近畿支部建築史部会

日時 2019年8月25日(日) 13:30-17:00

会場 大阪科学技術センター 402号室 大阪市西区鞠本町1-8-4

参加費 無料

お申込み 8月16日までに近畿支部ウェブサイトからお申込みください。

<http://kinki.ajj.or.jp/activity/history/index.html>



近畿支部建築史部会

懇親会 研究会後、会場近辺にて開催(予算5,000円程度)
参加ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■大阪方面・なんば方面より
地下鉄四つ橋線本町駅下車 28号出口より北へ徒歩5分



お問い合わせ 鈴木智大 (奈良文化財研究所)

e-mail tomohiro@nabunken.go.jp